

## 2006年度フィリピンサンラザロ病院研修日誌

感染分子病態制御講座

教授 西園 晃

2006/09/17 (日)

数日前から北上中の超大型の台風13号が九州を直撃する格好となり、直前まで出発が危ぶまれた。当日朝フィリピン航空の福岡営業所に連絡すると、現段階では飛ぶという返答だったため、大分駅に向かう。にちりんの車中には別府から乗車予定の山浦君と吉田カメラマンを除く全員が既に乗り込んでいた。

博多到着約20分前、甲斐さんからの電話で本日の便の欠航が知らされた。さて…急いでフィリピン航空のカウンターへ連絡すると、本日の便は欠航、出発は明日18日の午後3時50分へ変更とのこと、ただし座席の再度の予約などの必要はなく、全員そのままフライトがずれるだけとなった。みんな重い荷物を持っており、このままでは動きにくかろうと思い、とにかく空港に大きい手荷物を預け、身軽になってからその後のことを検討することに決めた。(博多駅から地下鉄に向かう途中「九州管内の特急は全て運休」のアナウンスが流れた時点で、大分へ戻る選択肢は断たれ、博多に留まらざるを得なくなった)

Orchid Garden Suite Hotel にキャンセルの電話を入れ、空港1階の日通に荷物を預けた(一日620円、計9,300円)。その後は自宅に帰る者(篠原君ら数名)、友人宅へ向かう者(大江君)、ネットカフェで過ごそうという者(太田君他)様々で、明日18日の午後1時に国際線カウンターに集合と云うことにして解散した。吉田氏と私は博多駅前のセントラザホテルにたまたま空室があり、ここで一夜を過ごすこととなった。何だか先が思いやられる…一晩中激しい風雨だったが、台風は夜半には九州を抜けたようである。

2006/09/18 (月)

台風一過、とは云えないが風も雨も止み今日は無事に飛行機も飛びそう。そろそろホテルをチェックアウトして出かけようか。

集合時間は午後一時に国際線カウンター、皆三々五々集まってきた。昨日預けた荷物を受け取り、カウンターで手続き後手荷物検査に。昨日乗れなかった人達も同じ便になったせいか、何時になく人が多い。出国手続きが終了したのは搭乗の30分前だった。

3時間15分のフライトはあっという間、もう眼下にマニラの町並みが目に入ってきた。飛行機を降り、入国手続きを済ませ、exchangeをして迎えのバンに乗り込む。今日はちょっとスコールが激しい、一年ぶりのマニラ。何だかとても懐かしい。

ホテルに到着して、全員チェックインを済ませた、今回の部屋は2部屋続きの大きい部屋。一つは書斎として使えそうなくらい大きい。こんなの初めて。その後みんなとハリソンプラザにある中華料理店(今年のメンバー隈部君がおいしいと云っていた)に行き、腹ごしらえをして明日に備えた。一日遅れのサンラザロ病院研修が明日からスタート。

2006/09/19 (火)

いよいよ今日から研修のスタート。今回は参加メンバーが10名の上、カメラクルー(吉田氏)を含め総勢12名のため、バン1台と小型車1台計2台を借り上げた。いつものように混雑したマニラの町並みを通り、9時前に病院に到着。早速 Dr. Reyes からオリエンテーションがあり、グルーピングや諸注意事項を受けた後院内を見学した(途中カバンバン院長室を表敬訪問)。昨年までと大きく変わっているのは、これまで病棟(パピリオンとここサンラザロでは呼ぶ)を中枢神経系感染症病棟、消化器感染症病棟、小児発疹性疾患病棟などと疾患毎に区分していたものが、小児感染症、青年感染症、成人感染症病棟という区分に変わっていたことが最大の変化であった。しかしこの分類だと同じ年齢層のいろいろな疾患が同時に見れるのはいいが、これまでのような臓器別、機能別に感染性疾患を理解するには不便なような気がするが、どのような理由でこうなったのかは改めて尋ねてみようと思う。

毎週火曜日は **Amphitheater** での病院カンファレンスの日である。今回も院内の医師達に我々の紹介とこの活動についての簡単なブリーフィングをした後、症例検討会に入った。今回の症例は「象皮病」の症例であった。最後までフィラリア症と神経線維腫症の鑑別が困難な症例で、聴衆から様々な意見が出された。フィラリア症とすると最近の日本ではもうほとんど見ることのできなくなったくらいの典型的な症例で、写真もかなりショッキングなものであった。午前中から吉田氏は積極的に映像の撮影に追われていた。

居室に戻り、**welcome lunch** をbuffestailで終わると、午後は講義が2コマ(小児感染症のマネジメントとマラリア)用意されていた。私は **Dr. Reyes** とともに **Cabanban** 院長の部屋へ赴き、諸事務作業をこなした。(①日本から持参した各種希望医学書籍の贈呈 ②研修費と院長への謝金の贈呈 ③来週の調印式の式次第の打ち合わせ、特に覚え書きの各項目の内容確認とすりあわせ ④看護教育部長との対面)特に研修費に関する項目については、来年度以降はサンラザロ病院の要求する額(年度ごとで若干変動の可能性ありだが基本的には\$50/人)を支払うことを確認し、これを反映する内容を覚え書きに記載することとした。またこの研修費については今回の覚え書きでは「学生」に限ることとし、その内容も文面に盛り込んだ。以上の諸事務作業を終えると、学生もほぼ午後の講義は終了しており、第1日目の日程を終了した。今回は、10名中女性が9名とかつて無い割合で、居室、移動の車中共に非常に賑やかである。

2006/09/20 (水)

7時15分にホテルを出発、今日から本格的に本年度の病棟での研修が始まる。今回から Ward Assignment は Child-, Adolescent-, Adult-Ward, PTB の4ブロックに別れてローテーションが行われる。学生が午前中の病棟見学をしている間に、吉田氏と二人で典型的な症例を撮影に、各病棟に向かった。今日は今回数多く入院している Dengue 熱の患者の典型的な皮疹とこれも典型的な髄膜炎菌性菌血症の皮下出血像、さらには結核病棟で cachexic な多くの患者の姿を記録に収めることができた。滞在中にできるだけ多くの典型症例を撮り貯めることができれば、今回の GP での目的の一つとしてあげた症例ライブラリーの作成に役立つものと思う。

午後から学生は、Dengue 感染症とチフス熱の講義。いずれの講義を見てもそうだが、みんなあまりにも technical term を知らな過ぎる。これでは、Dr. からの説明を理解するには大変な困難だろう。もっと事前に英語での医学用語の理解があつてしかるべきだと思った（各疾患の集中講義はしたつもりだったが）。来年からは、technical term の知識を面接で聴取したり、事前学習のなかで集中的に身につけさせる必要があると感じた。院内では Dr. Guzman や昨年大変お世話になった Dr. Shane Marte と久しぶりの再会を喜び合った。

ホテルに戻り、5時から通訳の佐藤氏と打ち合わせ。特に 25 日月曜日の調印式の日のスケジュールやバンの追加手配、看護学科の教員のサポートに関して、謝金の受け渡しなどを行った。昨晚のこともあり、学生にはこの付近は一人で出歩くのは危ない場所だと忠告して頂いた。その後の夕食は通り向かいの Century Park Hotel でみんな一緒に済ませた。

2006/09/21 (木)

今日から通訳の佐藤さんが合流してくれる。今回の研修は GP の申請書にも挙げた研修の充実化と看護や臨床研修プログラムの立ち上げ、さらには協定書、覚え書き書の調印などの事務的な交渉が多く、専門の方に援助頂こうと云うことで GP からの経費をこれに充てることとした。佐藤氏は今回研修に参加した山浦君の父上からの紹介で、通訳業だけでなくマニラで語学学校の経営などにも関わっておられる方で、私の通訳だけでは不十分な点を補ってくれるという点で非常に力強く期待している。

午前中は看護部のチーフである Wilmar Ladores 婦長と、来週から訪問する看護科教員との打ち合わせに向けた事前折衝を行った（詳細に関しては後述）。その後当地で今後本学の研修生が講義、プレゼンに利用するラップトップコンピューター、LCD プロジェクターを購入しにマカティ地区へ向かった。予め Dr. Reyes から彼らの希望する spec. を聞いていたので機種を選定は問題なかったが、購入にあたってカード利用ができないとか、在庫が直ぐには無いなどで、佐藤氏の事務所の人にあれこれ当たってもらい、最終的に購入する店も決まって、さて購入する段になって ID が是非必要と云われた。残念ながらパスポートを持参してこなかったため、明日また来店して購入することとなった。

＜看護師の研修に関する予備情報、申し送り＞

看護科原田先生、寺町先生、附属病院赤峰婦長へ

サンラザロ病院での看護師の実習計画に関し以下の点について情報をお知らせします。

1. 研修を希望するのは看護学生なのか、看護師（免許取得後）なのか、大分大学側が考える研修対象者を予め明らかにしておいてきて欲しい。  
(例えば看護科修士の学生数名にこの病院での感染症の実態を見学することで、単位化することはできないか?などを検討するとより具体的かもしれません)
2. 附属病院看護部からのサンラザロ側に希望するものは何か?インфекションコントロールの実態の提示、種々の感染症の見学などなど…赤峰婦長からの希望をまとめておいて下さい。
3. いずれにしてもサンラザロ病院の現状とこの病院における感染症治療、ケアの見学とその後のディスカッションのために、来院する本学看護科スタッフのためのプログラム(院内ツアー、打ち合わせなどのプログラムを用意するとのことです)。

今回はあまり肩肘張らずに、様子伺いと可能なものから少しずつ計画するというスタンスで良いのではないのでしょうか?

(マニラより 記 西園)

学務課井上さん、安東さん

井上さん  
安東さん

前略

西園です。何とかやっております。

ホテルで支払う残金についてですが、17日の宿泊がキャンセルになった分、その後調印式の25日にもう1台バンを予約したり、その他あれこれ変更がありまして最終的にホテルに支払う額は総計\$3,500位になりそうです。

熊原さんにはGPからの支出として\$1,500用意するように云っています(当初は\$1,000でしたが、余裕を見てこの額をお願いしました)。

残りの\$2,000は後援会から(?)学生からの徴収分から(?)でお願いします。

安東さんとの話では、\$3,826を持ってくると云うことでした。余りを持って帰ればよいので当初予定の持参金額でOKだと思います。

追記

前ページの申し送りを看護科の方々へお渡し下さい。

今回は吉田さんに写真は任せてあるので、添付写真は無しです。

草々

マニラより